

昔、あるアジアの国に干ばつが起こりました。どんどん食糧も枯渇し非常事態になる中、クリスチャンたちが集まって、雨が降るように祈ることになりました。ところが、この時、牧師先生は集まった人々を見て「祈りをやめよう」と言ったのです。その理由は集まった人々が信じていないからだというものでした。来た人々は誰も傘を持っていなかったのです。頭では「降るだろう」と信じていました。でももう一つの心では「大干ばつだから降らない」と思っていたのです。

私たちが日常生活を行っている様々な問題が起こりますが、乗り越えられない壁はありません。しかし、一つ乗り越えられないものがあります。それはなんのでしょうか。

私たちはそれぞれが「自分の考え」を持っています。それを正しいと思っていますが、今一度、自分がもっている考えがどれほどのものなのか考える必要があります。私たちは自分のことが分かっているようで、実は分かっていないからです。その1番の敵が「自分の考え」なのです。

■ ヤコブ4：6～17から

ここには「悪口」「悪魔に立ち向かう」「高ぶり」など様々なことが出てきますが、あなたはどこが気になるでしょうか。そして「あなたがたは、苦しみなさい。悲しみなさい。泣きなさい。あなたがたの笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。」(ヤコ4：9)とあります。これはどういうことでしょうか。

私たちは生きていくと「何をやってもうまくいかない」「先が見えない」「道が開けない」そんなことがきつとあると思います。それでも神様を信じる私たちの心には、やり遂げようとする情熱や「必ずよくなる」と信じる気持ちがあり、そのことに「疑い」はないはずですが、ただ現実とは違うのです。こんな風に私たちの状況が苦しくなっていく時、自分の中にある「ある心」が見えてきます。それは「二心」です。頭ではわかっています。でもそんなとき「自分」が出てくるのです。

また、ヤコブ書には「神になんでも祈りなさい」と書かれています。しかし「二心のある人は聞かれると思っはいけない」とも書かれています。「心では思っている、でも行動は違う」二心のある人の人生はこんな感じです。だから実際に恵が降ってくると私たちは困るのです。私たちは兎角、本当に祈りが聞かれるとうまくいかなります。なぜならそれを受け取る準備ができていないからです。あなたは準備ができていますか？だから、もし今、うまくいかなければ、その理由は「自分自身」にあるのです。でも、私たちは自分自身の問題には目を向けず誰かのせいになっていると「人のせい」にしてしまっているのです。

「神は、さらに豊かな恵みを与えてくださいます。ですから、こう言われています。「神は、高ぶる者を退け、へりくだる者に恵みをお授けになる。」(ヤコ4：6)おごり高ぶりは「自分は悪くない」という思いを与え続けます。逆に「こんな私はダメ・ムリ」これもおごり高ぶりです。結局自分を変えようとしなことが「おごり」なのです。

私たちは何も自分では調整できません。にもかかわらず、自分の考えは「こうだ」と思い、何かができると信じて人を見下しているのだとしたら、それはとても愚かなことです。だから「悲しめ」と言われているのです。自分ではできないとわかれば助けを求められます。こうして、私たちは、問題の中を通る時、自分が少しずつ変わっていくのです。

「聞きなさい。「きょうか、あす、これこれの町に行き、そこに一年いて、商売をして、もうけよう」と言う人たち。あなたがたには、あすのことはわからないのです。」(ヤコ4：13、14)「まだ〇年ある」と私たちは思いますが、明日はわかりません。だから私たちは与えられた齢を全うする以外ありません。そして私たちがその御心に生きて、物事を成し遂げていくと何かが起こるのです。

カリフォルニア大学で行われた研究にこんなものがあります。病院の心臓病患者をA群B群の2つに分け、コンピュータで無作為にクリスチャンを選び、双方に調査をしていることは言わず、A群にほとにかく毎日祈る、B群に対しては祈らないという実験をしました。すると軒並みA群のほうがその後が良好だったという結果が報告されているのです。祈りには力があります。そしてあなたのためにも祈ってくれている人がいるのです。どれ程の人があなたの事を思っているか知っていますか？たくさんの方が

あなたのために戦ってくれているのです。戦わないのは自分です。それでも私たちの人生はうまくいっています。「うまくいっている」とは、私たちが「人格者になっている」ということです。神様は私たちの願いを聞きたいのです。だから大切なのはあなたの願いと思いが叶えられた時、私たちがそれを受け取る「手」があるかどうかなのです。それゆえ自分を清めなさいと言われていています。私たちの心に二心があるうちは次のステップには進めません。「私たちの本質をつくり変えたい」これが神様の願いです。二心は私たちに与えられようとする恵みを全てとられてしまいます。だから私たちは神様にすべてを祈る必要があります。

■ 神様にすべてを祈る

旧約聖書を見てみると人々は神様に色々と訴えています。でも神様はそれを退けてはいません。だからすべてのことを祈ればよいのです。文句でもいいのです。願えばかりいうのではだめです。祈りはきれいごとではありません。時にはすべてを失うこともあるでしょう。自信ややる気を失いもうだめだと思ってしまうこともあるでしょう。でもそれでよいのです。あなたの二心が目立つからです。

■ 被害者意識の解放

被害者意識には問題を変化させない力があります。私たちはいつも周りの人に被害者意識をもっています。「あいつのせいでこうなった・・・」人のせいです。二心を捨てないと決してよくなるはずありません。自分は間違っていないという「自己義」をもつということは自分を「神」にしているということです。私たちは決して神にはなれません。神にはなれませんが「神対応」を学ぶべきです。あなたが神様にしてもらったように、その問題を一緒に解決していくということです。これは強い意志が必要です。私たちは「ここさえすればよくなるということ」がなかなかできません。人から見ればそんなに難しいことではありませんが、その人にとっては選べないことなのです。そして選ばなかった後、どうするかが大切です。ペテロも選べず失敗しました。でもその後変わったのです。強い決意をもつべきなのは当事者ではなく、そこに一緒に立ち向かう人なのです。私たちは相手に強い決意をもつように言いたいものです。でも強いあきらめない信念は、それが簡単にできていると思っているあなたがもつべきなのです。神様は、あなたができるからあなたに任せているのです。

■ 強い決意によって去る

これが家族の恵です。「人はすべて乗り越えられる。しかしあなたの考え方は乗り越えることができない。」あなたがそう考えているうちは変わりません。あなたが忠実に向き合わない限り環境が変わることはないのです。「その人が変わればよい」と思っているうちは、あなたの現状は悪くなる一方です。神様はあなた自身の人格が変わることを願っているからです。今日知りましょう。私たち自身が変わる必要があるのです。

さいごに

私たちが祈れば神様に届きます。そしてそのプロセスの中で神様が行うことは私たちの心の中にできた別の間違っった思いを取ることで。私たちが願ったことを受け取っていいように、それによって私たち自身があふれるように、それを失わないようにするために、あなたとあなたのまわりにいる人を変えようとしています。だから今、私たちの前にある現状がたとえマイナスでも、もっと悪くなったとしても、それを感謝することが大切です。それを通して、私たちが祝福され、本質に戻り、神の前に近づけるからです。神様の前に近づけた人の奇跡は、私たちの願いよりももっと大きく、私たちの知らない世界にまで大きく影響を及ぼすからです。だからこそ、今すべての思いを神様にゆだね、二心を捨てましょう。そして神様が与えてくださろうとしている恵みを受け取るために、自分を変える決断をし、備えていきましょう。

(要約者:岩崎祥誉)

(2021年1月31日)